

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	12-333	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
Comparison of direct and indirect alcohol markers with PEth in blood and urine in alcohol dependent inpatients during detoxication. 入院により断酒中のアルコール依存症入院患者における血中および尿中のホスファチジル・エタノールによる直接的および間接的アルコールマーカーとしての比較		
執筆者		
Winkler M, Skopp G, Alt A, Miltner E, Jochum T, Daenhardt C, Sporkert F, Gnann H, Weinmann W, Thierauf A. Source		
掲載誌		
Int J Legal Med. 2013 Jul;127(4):761-8. doi:		
キーワード		
要 旨		
目的： 臨床および法医学におけるアルコール摂取を評価する直接的および間接的なアルコール・マーカーの重要性が増大している。いくつかのマーカーが断酒を証明するのに用いられ、いくつかのマーカーはアルコール誤用の検出にむいている。ホスファチジル・エタノール (PEth) は、後者の例とされる。PEth と現在使用される他のマーカー (エチル・グルクロニド、エチル硫酸、炭水化物欠損トランスフェリン、ガンマ-グルタミルトランスペプチダーゼ、メタノール) 間の相関についての情報、および断酒後のそれらの低下についての情報はほとんどない。		
方法： 詳細な情報を得るために、断酒治療中の 18 例のアルコール依存症患者で、最長 19 日間血液と尿でこれらのパラメータをモニターした。異なるマーカー間には相関がなかった。		
結果： PEth は、介入の開始により、最初の数日の後の緩徐な低下後、急速な減少を示した。またエタノールの断酒後 19 日でも検出することができた。		
結論：		